第38回国際経済協力セミナー

What is One Health?

講演者：宮城島 一明氏

国際獣疫事務局(OIE)事務次長兼任科学技術部長

文責：永井 哲平
草案作成：大森 麻琴

宮城島氏は1986年から1998年まで厚生省において、地域保健、母子保健、精神保健、医事・医学教育、国際協力等の分野の行政実務及び研究に携わる。このうち1994年から1998年まで、世界保健機関(WHO)に派遣され、WHO 本部および国際連合食糧農業機関(FAO)本部において食品の国際衛生企画の策定など、食品保険に関する業務に従事すると同時に、WHO と世界貿易機関(WTO)との連絡調整を担当した。1998年から2003年まで京都大学大学院医学研究科助教授。2000年には遺伝子組み換え食品の安全性審査に関する国際基準を策定するための作業部会の座長を務められた。2002年から2003年まで農林物資規格調査会専門委員および薬事・食品衛生審議会臨時委員。2003年10月に FAO/WHO の合同事業である国際食品規格委員会(Codex Alimentarius Commission)の事務局長に就任し、手続きの可視化や総会の毎年開催など一連の改革に取り組む。2009年8月に国際獣疫事務局(OIE)科学技術部長に転じ、2010年1月から事務次長兼任、現在に至る。

<u>蜜蜂の重要性</u>

蜜蜂の存在は、農作の豊作、生態系の保持、人間の食料供給などに大きな役割を果たしている。しかし近年、蜜蜂の数は激減しており、その原因の一つとしては、各国の蜜蜂の種は大元が大体同じで、蜜蜂の免疫が弱いということが挙げられる。

<u>国際獣疫事務局(OIE)</u>

OIE はパリに本拠地を置いている。2012年現時点、OIE の加盟国は全178ヶ国、アフリカ52か国、アメリカ大陸30か国、ヨーロッパ53か国、中東・アジア20か国、極東およびオセアニア36か国という構成になっている。形態としては、OIE，WHO，FAO で協力して活動することが多い。職員数について見ると WHO 約2,000人、FAO 約2,500人に対して、OIE は120人と圧倒的に職員数が少ない。この3機関で特に重点を置いているのは、狂犬病(Rabies)、AMR(Antimicrobial Resistance)、GLEWS (Global Early Warning and Response System for Major Animal Diseases, including

Zoonosis)、そしてインフルエンザ(Influenza)である。

質疑応答

Q. OIE は主に「人間の健康と利益」のために活動しているのか、それとも道徳的な観点から活動しているのか。つまり、人間に直接関係のなさそうな動物の聞きに対処することはあるのか。

A. OIE は人間のための機関である。だが、動物の福祉にも取り組んでおり、家畜の運搬ストレスの軽減、屠畜する際の恐怖軽減などを行っている。いずれも人間の視点から行われるものではある。

Q. WWF との連携はとるか。

A. あまりない。希少野生動物の発見など。

Q. OIE は国連下の機関ではないが、それによる利益や不利益はあるのか。

A. デメリットは、国連の機関ではないため、シカトされるなど取り合ってもらえない場合や、招待状が来ないことがある。メリットは、低コストで活動でき、給与は恐らく国連職員の3~4割程度である。また、国連の規定のしがらみ外での活動が可能で、国連に無視されている台湾とも病気対策の活動を行える。特徴的な加盟国には台湾、中華人民共和国がいる。病気への対応が早くできると思われる。

Q. 今 OIE が一番力を入れているプロジェクトは何か。

A. 色々取り組んでいるため一番と言えるものはないが、基本的には動物の病気の早期発見、加盟各国のガバナンス、国の行政が的確な対処をとることができるように機関から専門獣医を派遣し、指導を行っている。

Q. 今一番警戒されている病気は何か。

A. 口蹄疫。最近タイのバンコクで行われた会議でも団結して解決していこうと宣言した。

今回の講演では、公衆衛生と動物の衛生の関連についてはもちろんのこと、OIE の業務内容と WTO・FAO など関係の深い他の国際機関との連携について知ることができる貴重なものであった。質疑応答も活発に行われ、学生たちの国際協力への関心を向上させるものであったに違いない。